

寝室にて

エミリオ：私には似合わない。

ミゲル：そんなことはない。若い女の子は白い髭に夢中になり振り返るよ。

ミゲル：ねえ、ロックフェレ、気管支炎に罹るぞ、パジャマのボタンをはずしていると。

エミリオ：え、いいや、私は大丈夫、決して風は引かないよ。

エミリオ：私も同じだ、私達二人は、丈夫なのだ、ロックフェレ。

エミリオ：そう、その通りだ、私はスポーツをよくしていた、特に水泳はね。若い頃はよく海に行ったものだ、その後、銀行に勤めてからは、少なくとも週に一回はプールに通ったよ。

ミゲル：本当？すごい活力だなあ。

エミリオ：ねえ、このプールでも泳ぎたいのだ。使えるか、明日聞いてみよう。

ミゲル：そうだね、そうするといい、ロックフェレ。然し明日はクリスマスで客がたくさんきててんてこ舞いだよ。君の息子も来るだろう？

エミリオ：うん、どうかな、来るか来ないか、どちらでも私には実のところ同じだ。

ミゲル：心配しないでいいよ。家族なんてクリスマスのお菓子（ツウーロン）と同じさ、クリスマスに思い出す。

エミリオ：しかし、どちらも、胸やけがする。（少しでよい）

ミゲル：は、は、は、確かにそこも似ているね、おやすみ、ロックフェレ。

エミリオ：お休み。

エミリオ：私の腕時計、寝た時、部屋のここに置いたのだけれど、無い、足が生えて出て行ったと言うのか？

ミゲル：ロックフェレ、私は時計に触れていないよ。良く探して、どこかに有るはずだ。

エミリオ：なあマヌエル、君は潔白のはずがない、君が盗ったに違いない。

ミゲル：ねえ、エミリオ、落ち着け、一緒に捜してあげるから。

エミリオ：私を馬鹿にするな、一緒に君が捜すだと？君が人のものを盗むのを何度も見たのだ。

ミゲル：ちえ！

エミリオ：盗むのを何度も見たのだ。

ミゲル：馬鹿な、容疑者として私を指差さないで、。君はいつも頭が変ではないか。私に罪を被せないでくれ。

エミリオ：信じられない、この嘘つき、私を混乱させないで！君は...

ミゲル：その手をどける、君は何様だと思っているのか？ 喧嘩をするつもりか？《エミリエを突き倒す》大丈夫か、ロックフェレ？けがは？

エミリオ：時計を返せ、泥棒。

ミゲル：君に言うが、あんなぼろ時計なんて知らない、勝手に一人で捜せ。

エミリオ：このままで済むと思うな！君を訴えるぞ！

ミゲル：良いよ、君の思うようにしろ、このボケ老人！

エミリオ：時計を捜していたのだ。

ミゲル：よく聞け、ロックフェレ、この箱の中身を誰かに言ったら承知しない、言ったら君を殴るからな、分かったか？

フアンシヨ：やあ、エミリオ、大丈夫？ エミリオ、変わらない？朝食に来なかったね。

エミリオ：疲れていたもので、ゆっくり寝ていたのだ。もう大丈夫だ。

フアンシヨ：どこか悪くないの？めまいはしない？

エミリオ：いや、いや調子は良い、本当だ、少し寝過ぎただけだ。

フアンシヨ：本当に悪くないのだね、薬を持ってきたよ。飲んで。

エミリオ：有難う。

ロッシ：エミリオ、洋服を着ていないの、ご家族が会いに来ていますよ、急がなくては。

エミリオ：何だって？

ロッシ：貴方のご家族、エミリオ、貴方に会いに来ているのよ。

サロンにて

孫：おじいちゃん、こっちを見て、おじいちゃんなぜ、洋服これで良いの？

ホアン：エミ、フラッシュを消して。

エミリオ：洋服が何だって？

ヌエラ：エミ、おじいさんに迷惑を掛けてはだめよ。

孫：迷惑は掛けていないよ。カメラを見て、おじいちゃん見て、セーターが背広の上になってる。

エミリオ：そうだね、これが一番着心地が良いのだよ。今は勤めにいかないからね。

孫：ああ、僕の持っているカメラを見て、10メガピクセルだよ。

ホアン：後で教えてあげるからね、今パパ達は話がある、向こうに行って写真を撮っておいで。

孫：わかった。じゃ後でカメラを教えてね。おじいちゃん後でね。

エミリオ：ねえ、教えてくれ、あの子供は何故、私をおじいちゃんと呼んでいる？

ホアン：私の息子だから、エミは貴方の孫、何故だかわかった？

エミリオ：そうだ、そうだったね、色々なことに記憶力が悪くなって。

ホアン：フラッシュを消せって言ったでしょう、迷惑だよ。

孫：だって。

ヌエラ：ねえ、エミ、カメラをちょっと私に渡して。

エミリオ：大丈夫、かまわない、強い光に目がくらむようになってね。最近白内障が進んだように思えてね。

ホアン：パパ、ここでの生活はどう？ここの人たちの扱い方はどう？

エミリオ：うん、悪くはないよ、本当のところ、看護師や他の人々は皆親切だ、食事もとても良い、レストランのようだ、その上、毎週運動もある、

ホアン：運動、良いね、父さんにとってはとても良い。

エミリオ：そう、そう、プールがあるのを知っているか。

ホアン：ええ、ええ、このホームを選んだ理由の一つです。父さんは水泳がとても好きだからね。

エミリオ：その通り、寒いうちは怠けて、春になったら泳ごうと思っている。

男：私のとてつもない記録記事だ。ほらこの記事を見ろ、ABC

ラモン：メリークリスマス、おじいちゃん。メリークリスマス、おじいちゃん。

盲人：フェリックスのいびきがうるさくて眠れない、まるでチェーンソーだ、ブルーブルー。

アントーニャ：おばあちゃんからのプレゼントよ。あなたのために集めたの、ケチャップに上等な紅茶、ジャムに石鹸。

孫：でもおばあちゃん、僕に（いらないよ）

アントーニャ：しっ、静かに、見つかる前に早くしまつて。